



2021-2022年度R.I.テーマ
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



2021-2022年度 齋藤 修弘会長

第2902回 例会
2021. 12. 9

会長あいさつ

週報 No.2182
発行 2021年 12月 16日

2021-2022年度
会長 齋藤 修弘
幹事 長沼 大策
副会長 深澤 圭司
副幹事 門崎 由幸
編集責任者・公共イメージ向上委員会
委員長 横山 泰史

行事予定

- 12月23日 年次総会
クリスマス例会
(時間変更)
- 1月 6日 氷川鉦神社初詣
- 1月 13日 会員卓話
大木 保司会員
- 1月 20日 クラブフォーラム②
会員卓話
島村 健会員
- 1月 27日 新会員卓話
寺脇 貴浩会員

皆さん、こんにちは。本日もお集まりいただきありがとうございます。先週はガバナー公式訪問がありました。委員長をはじめ役員の方々にはクラブ協議会まで長時間にわたりご参加いただきありがとうございます。今日は会員卓話として大塚崇行さんに「小中学校の今後」についてお話しいただきます。よろしくお願ひいたします。皆さんご存じのように、大塚さんは教育委員会で委員をされていらっしやって、市内の小中学校の統廃合が進むであろうこともご存じだと思いますが少子化が主な原因なのかなと思っております。

最近のニュースで、2022年度、来年度より、高等学校における「金融教育」が家庭科の授業でスタートされるとありました。2022年度からの文部科学省の新しい「高校学習指導要領」では、家計管理などを教える家庭科の授業において「資産形成」の視点に触れるよう定めています。高校の家庭科という限られた科目ではあるものの、ようやく日本の公の教育において金融教育に関して具体的に踏み込んだ授業が来年度よりスタートするようです。

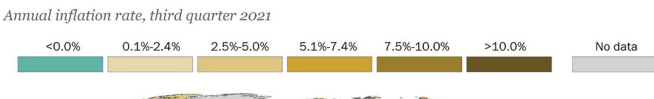
さて、そんな金融の話から経済的なお話しになるのですが、日本のデフレについてお話ししたいと思います。ワシントンDCのシンクタンク、ピュー研究所がこの度、私たち日本人にとって衝撃的なレポートを公表しました。一言でいうと、「世界でデフレしているのは、なんと日本だけ」という衝撃的なレポートを目にしたので、共有させていただければと思います。ピュー研究所というのは、アメリカ・ワシントンD.C.を拠点としてアメリカや世界における人々の問題意識や意見、傾向に関する情報を調査するシンクタンクで、所長は前ウォールストリート・ジャーナル副編集長のアラン・マーレイ氏だそうです。レポートのタイトルは「世界中でインフレ率が上昇：そして米国が最大のインフレ率上昇国家の一つである」というもので、その内容は、今、世界中で物価が上昇し始めていて、それが今年2021年の第3四半期(7~9月期)の、前年同期と比較した物価上昇率の数値に現れているというものです。コロナ禍で低迷していた世界経済が復活しつつあるという内容です。

インフレ率が高すぎるのは勿論問題ですが、低すぎるのはもっと問



ROTARY CLUB OF AGEO

Where inflation is highest and lowest across 46 countries



Argentina (51.9%) and Turkey (50.3%) have the highest inflation rates. Japan (-0.2%) is the only nation with negative inflation.

Note: This analysis includes the 35 OECD member nations and eight other economically significant nonmember countries for which the OECD provides data. Source: Organization for Economic Cooperation and Development. PEW RESEARCH CENTER

題で、さらに言うともマイナスを記録しているデフレーションという状態はさらに深刻だそうです。デフレとは、物価が継続的に下落していくことなのですが、そうするとその国の法人各社の売上は必然的に下落し、それが二次的に国民の賃金の下落、そして貧困化をもたらすと言われてます。このレポートが「衝撃的」だったのは、各国のインフレ率を示した世界地図において、文字通り「唯一」、日本だけがマイナス0.2%と、その最悪の経済状態であるデフレに陥っていることがクッキリと示されていました。

今、日本国内の人びとは、経済が低迷しているがこれはコロナのせいだから「しょうがない」という諦めモードになっています。飲み会も旅行もコンサートやイベントも皆「コロナだからしょうがない」と諦めてきたそのマインドで、今の経済低迷も「コロナだからしょうがない」と諦めているわけです。それに反してこのレポートでは、現在の経済低迷はなす術がないという訳ではない、ことを表しているのかと思います。世界中の国々はこの約2年間でコロナによる経済的打撃を受けました。しかし、諸外国は消費税をしっかりと減税し、大きな規模の経済対策を迅速に取り組み、その結果としてコロナ禍から着々と「復活」し始めているようです。コロナ禍による経済低迷はどうしようもない、という話ではなく、国の施策によって克服できるものであり、日本以外の国々はそれを実現させているようです。日本も経済対策をやっているものの、積極的に欠け、未だデフレ状況に陥ったまま立ち直れていない、と報道されています。日本と同じくコロナによる健康被害が「さざ波」程度であると言われている、中国

や韓国や台湾の東アジアの諸国は、日本のように激しい自粛政策をやっておらず、その結果、著しい経済低迷をしていなかったようです。一方、日本が必要以上の自粛を繰り返して、経済を低迷させてしまったと最近ではよく言われています。また、不運にもコロナが大流行する直前に、消費税増税を多くの反対の声を撥ね除けて断行し、コロナになった後も諸外国が当然のようにやっている消費減税を行わず今も増税状況が続いている、その結果、世界で唯一日本だけがデフレのままであるという状況になっていると言われてます。

先週の公式訪問で松本ガバナーが「コロナのせい」という言葉を使うのをやめて、やれることをやってみようと言っていました。この約2年間、気付けばあつという間でしたが、テレビをつけても明るいニュースが少なく、政府批判や揚げ足取りのような報道が多いですが、今年も来ると約3週間後で終わります。今後、日本が来年、再来年と少しずつでも明るい世の中になってほしいと願いつつ、会長挨拶とさせていただきます。

委員長報告

親睦活動委員会 奥川淳一委員長

12月23日、クリスマス例会のご案内です。アトラクションではテレビやYouTubeで活躍のものまね芸人をお呼びしており、ぜひ皆さま楽しんでいただければと思っております。



それと新年1月6日、氷川鉦神社様での初詣例会の後に、懇親会を設営させていただきます。こちらにもご参加のほどよろしくお願ひいたします。

近況報告

村岡 武仁 会員

私は尺八を吹いていて、10月9日に江戸東京博物館大ホールで演奏会があったのと、11月3日に上尾市文化センター、そして12月12日に埼玉会館で演奏会があり、ここ3カ月の週末は慌ただしい生活をしています。近況は以上ですが、もう少しお話し

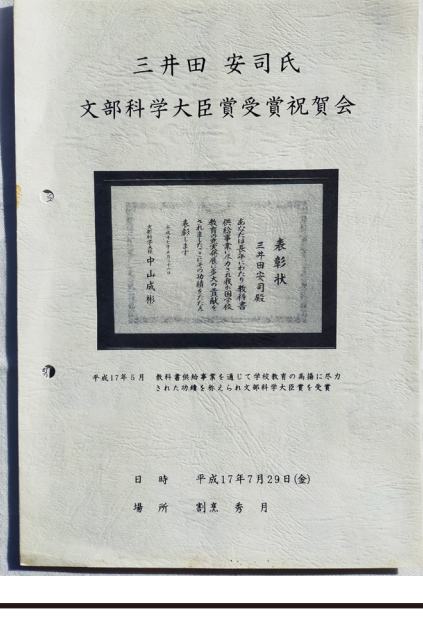


ROTARY CLUB OF AGEO

させていただきます。

上尾駅の発車メロディーはご存じですか？あれは「上尾市歌」で、上尾駅は市歌の最後の一節のオルゴールメロディーで、北上尾駅は市歌の冒頭部分の一節です。上尾市歌の作曲者はわが上尾RC第17代会長の三井田安司さんです。三井田さんは音楽家でサクソフォーンを吹き、美空ひばりのバックバンドで演奏していたり、上尾高校の音楽の教諭でブラスバンドを立ち上げたり、上尾の市民吹奏楽団を立ち上げるなど活躍をされた方です。上尾市歌のCDは、三浦洗一さんと安念千重子さんのデュエットで録音されています。三浦洗一さんは「東京の人」「踊子」「落葉しぐれ」などで有名な昭和の歌手で、安念さんはオペラのソプラノ歌手です。さて三井田さんのお話しですが、昭和42年の埼玉国体で、総勢600名のブラスバンドの先頭に立って指揮をとられました。三井田さんが文部科学大臣賞を受賞された祝賀会の記念誌の写真があります。三井田さんは上尾高校のブラスバンドを編成して、上尾高校野球部が甲子園に出場していた頃、チアガールも編成されたそうです。三井田さんは34年前、私が当クラブに入会した際の紹介者でもあります。

さて11月に行われた地区大会の、アトラクションで淑徳与野高校の音楽部と箏曲部が合同演奏をされましたが、上尾高校にも箏曲部がありかなり有名です。上尾高校の箏曲部はレベルも高く、埼玉代表で全国大会に出場する常連校です。いまコロナ禍で演奏の機会が減っていますので、皆さんには、もし何かの機会があれば上尾高校の箏曲部さんに演奏のオファーをしていただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



例会主題

小中学校の今後
大塚 崇行 会員

私が上尾市教育委員会の教育委員をやっており、クラブの皆さまには上尾市の今後について知っていただければと思ひ、上尾市学校施設更新計画基本計画(案)に沿ってお話ししたいと思います。更新計画は約3年の時間をかけて練ってきて、いま市議会などにも提出していますが、なかなか計画が進みません。やはりお金がかかることなので、市議会での審議を経て次のステップへととなりますが、理解いただくのが難しく、まだ案の状態ということで聞いていただければと思います。

こちらの基本計画で出てきているのは、2012年(平成24年)に中央自動車道の笹子トンネルで天井板落下事故があり、それがきっかけとなり、高度成



長期の昭和40年~50年代に整備された多くの施設を全国で見直そうとなりました。学校施設も更新していかなければいけないということで、上尾市としても令和2年・3年から35年後までの計画を立てました。それが学校施設更新計画です。

今の学校施設は40年以上前に多くが建てられました。小学生の児童数としてのピークは昭和55年23,000人で、中学生のピークは昭和61年度の11,000人でした。それが令和2年、小学生が10,800人、中学生が5,600人と約半数程度になりました。ピーク時に作った施設ですから、今ですら半減していることとなります。それが35年後にいきますと、今の7割になるだろうと上尾市では計算してきています。また校舎も建築後40年以上経過しているものが約70%と老朽化が進んでいます。そこで中学校の方でも小中一貫教育をもっていくこと、小学校と中学校の教育がつながりをもっていくこととなっています。またアクティブラーニングといって、先生が一方的に話すのではなく、子ども達と対話をしながら主体的・対話的な教育方法を採用してきています。少人数学級は年代をおって35人学級に今後制定されていきます。

さて今のままの学校をそのまま維持しようとする、1792億円かかることになっています。年換算で45億円、それが35年かかって維持できるという試算です。実際、今までで毎年かけている予算は約30億円です。なので今までの状態を維持するには毎年15億円の赤字になってしまい、そのようなことはできません。ですから今後の学校施設がかかっている経費を今ある水準から35%下げようというのがこの計画の基にあります。35%予算を下げた中での学校計画を考えてくださいと指示があって、学校施設更新計画基本計画を、関わっている専門家が考え、私たち教育委員が意見をしています。ここまでをまとめると、児童が減っている、施設が老朽化している、この先々を考え、新たな教育方法、学校に対応していこうとなります。市民の方の声も聞いていて、も

のすごい量のコメントをいただいている、大体が地元の学校を残してほしいという反対意見なんです。上尾市総合計画という市全体の中の教育計画で、5年毎、7期で見直しをしながら進めています。上尾市をエリア分けすると、平方地区、原市地区、上平地区あたりがどうしても児童が減っていつてしまうよという学区別自動生徒数の推計が示されています。児童生徒数の推移・推計では、昭和55年の31,466人に対し、令和2年が16,752人、令和37年では12,762人となっています。

今後どうなるかのシミュレーションで、全部の学校を残すというケース①でしたら1792億円とありましたが、施設(建物)だけでいくと、更新費が899億円くらいです。施設の内容(プールや体育館など)を維持して、ただ学校を統廃合して考えた場合のケース②では更新費が725億円です。あとはプールの維持が高額なので、プールを民間に委託する(北本や桶川は民間施設に行きプール授業を行っている)など、体育館・給食室など大きな施設を少なくするシミュレーションを考えています。学校の再編もエリアごとに考えています。将来の希望的観測と、危機意識の間で、私たち教育委員会はシミュレーションを繰り返し、計画を提言していきますので、地域のキーマンであります会員皆様のご理解をお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。



大塚崇行会員、卓話いただきありがとうございました!

- 齋藤修弘会長 / 深澤副会長 / 長沼幹事 / 門崎副幹事 / 大塚信郎会員 / 村岡会員 / 尾花会員 / 大木保司会員 / 大塚崇行会員 / 齋藤博重会員 / 久保田会員 / 齋藤哲雄会員 / 須田会員 / 樋口会員 / 宇多村会員 / 小田切会員 / 奥川会員 /

会員数	36
出席数	24
欠席数	12
出席率	66.67%

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30 事務所 〒362-0035 埼玉県上尾市仲町1-8-31 新和エクセルビル303

例会場 東武バネットホール4F(ポリアス) TEL 048-775-7788 / FAX 048-776-9799

